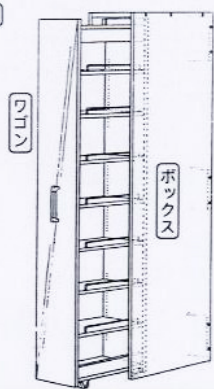


この度は本品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

完成図



【日本製】

たんす類の品質表示

寸法 (ワゴン) 約 幅 240mm × 奥行 440mm × 高さ 1776mm
外形 (ボックス) 約 幅 285mm × 奥行 465mm × 高さ 1800mm
引出しの奥行

表面材 前板前面・後ろ板前面 鏡面ポリエステル化粧合板
表面加工 その他 プリント化粧合板

取り扱い上の注意

- イ. 据付けの際には、湿気の多いところを避け、家具を水平に保つために必要な措置を講じてください。
- ロ. 直射日光又は、ストーブ等の熱を避けてください。

耐荷重量についての表示 固定棚・可動棚ともに約10kgを超えない範囲でご使用下さい。

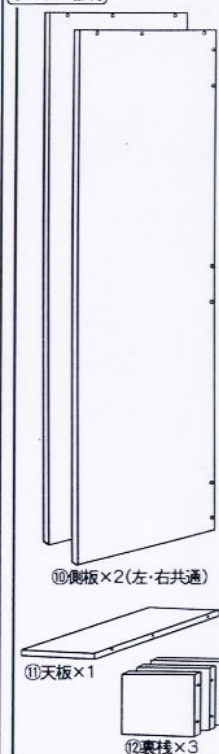
(部品明細) ※下図に描かれた部材・部品が揃っているか、確認して下さい。

※梱包を開けると、箱の両端に薄い板が1枚づつ入っています。これは商品を保護するためのものであり、組み立てに必要な部材ではありませんので、処分していただくようお願い致します。

ワゴン部材



ボックス部材



△組み立て前に必ずお読み下さい!

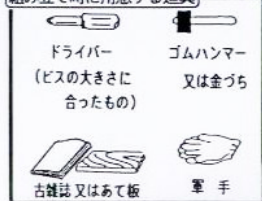
- 塗料・接着剤等の臭いがかもっている場合があります。梱包を開けて作業する場合は通気性を良くして行ってください。
 - 組み立ては充分に広い場所で行い、まわりの家具や床等に傷がつかないように注意してください。
 - 組み立ての際は指を挟んだり、足にものを落とさないように充分注意してください。
 - 組み立てる前にまず部材・部品を確認してください。
- 万一、傷・不足があればご面倒ですが下記のお問い合わせ窓口までご一報ください。
- ボンドをつける前に仮組み(確認)をすると、間違いが防げます。
 - 部材をボンドで接着した後では外す事ができませんのでご注意ください。
 - ビスのプラス穴に合ったドライバーを使用し、最初は仮締め程度にして組み上がってから締めてください。
 - ビスを必要以上に締め過ぎると、空回りして効かない場合があります。電動ドライバーをご使用の場合はご注意ください。
 - ボンドが完全に乾いてから(12時間程度が目安です)ご使用ください。尚、はみ出たボンドは拭き取ってください。

(注意)※商品を保護するために薄い板が2枚入っていますが、組み立てに必要な部材ではありません。

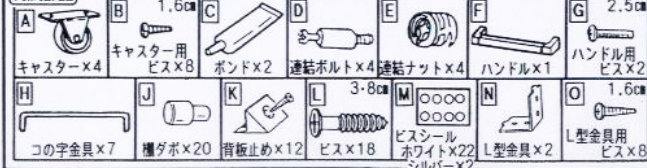
※裏面の取扱説明書も必ずお読み下さい。また、この説明書はいつでも見られるように大切に保管して下さい。

上記の注意事項に充分注意して、正しく組み立てて下さいますようお願い致します。

組み立て時に用意する道具



付属部品



組み立ての手順

F-894

番号の順番に従って、組み立てて下さい。

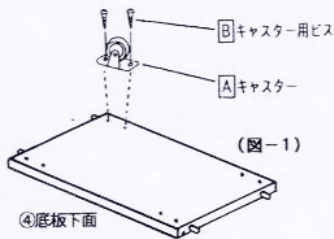
※ハンマーで叩く場合は、あて板・古雑誌(厚みが2cm以上あるもの)等をあてて下さい。

ワゴンの組み立て

1 底板にキャスターを取り付ける。

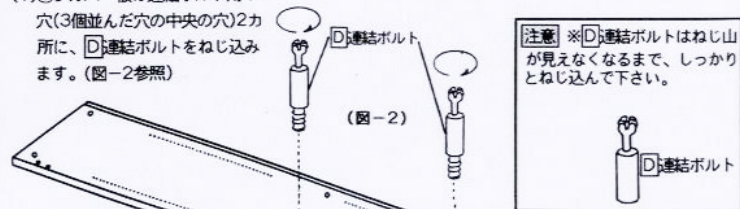
- ④底板下面の穴にAキャスターを合わせて、
Bキャスター用ビスで4個取り付けて下さい。
(図-1参照)

※Bキャスター用ビスが入りにくい場合は、きりや先のとがったもので穴を深くして取り付けて下さい。

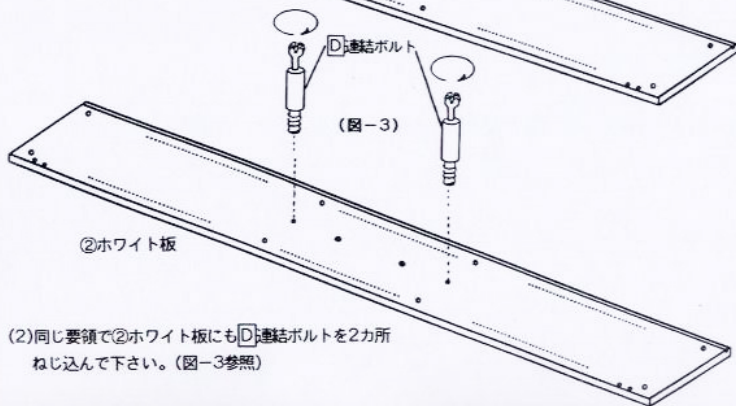


2 シルバー板・ホワイト板に連結ボルトを取り付ける。

- (1) ①シルバー板の連結ボルト用の穴(3個並んだ穴の中央の穴)2カ所に、D連結ボルトをねじ込みます。(図-2参照)

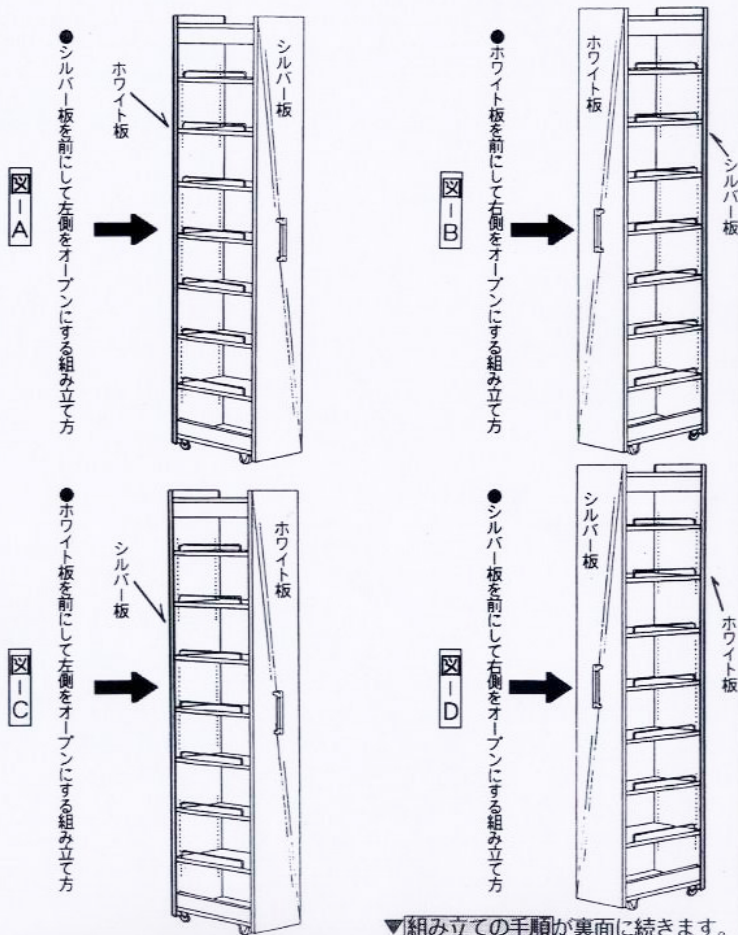


- (2) 同じ要領で②ホワイト板にもD連結ボルトを2カ所ねじ込んで下さい。(図-3参照)



(ご注意)※組み立ての手順 ③からはシルバー板・ホワイト板どちらを前にするか、また左・右どちらをオープンにするかによって組み立て方が異なりますので、ご注意下さい。(この商品は4通りの使い方ができます。)

●お好みにより、図-A~図-Dの使い方をお選びになってから組み立てて下さい。



▼組み立ての手順が裏面に続きます。

③ワゴンを組み立てる。

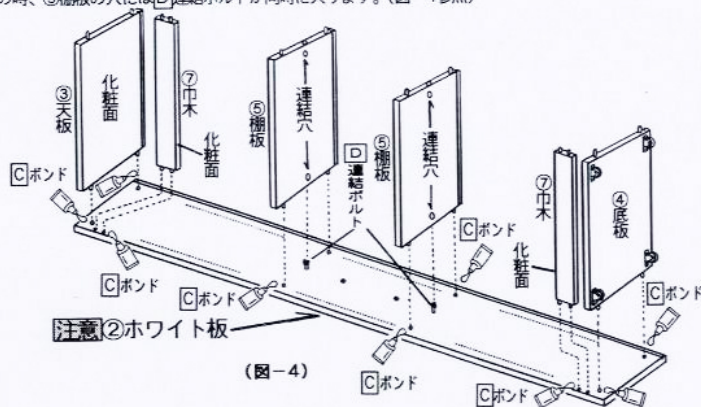
注意 ※③天板と④底板が入る穴はやや多めにボンドを入れ、はみ出たボンドは雑巾などで拭き取って下さい。

手順①

②ホワイト板の穴8個にCボンドを入れ、③天板・④底板・⑤棚板2枚・⑦巾木2本の突起した部分を穴に合わせて差し込みます。

この時、⑤棚板の穴にはD連結ボルトが同時に入ります。(図-4参照)

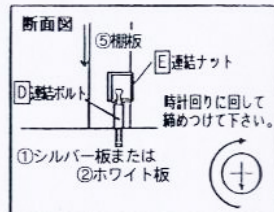
図1A・図1Bの場合



手順②

⑤棚板2枚の連結穴にE連結ナットのプラス穴にある矢印の向きを下向きにして差し込み、約180度(180度は回りません)時計回りに回転させて締めつけ、D連結ボルトと連結します。(図-6参照)

注意 ※E連結ナットの矢印が180度近く(約半回転)動くまでしっかりと回して下さい。
連結ナットを回らなくなるところまで締めつけないと、くらつきを生じます。



(図-6)

※E連結ナットをプラスドライバーで回しにくい場合は、マイナスドライバーで回して下さい。

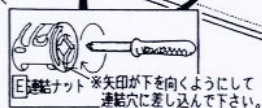


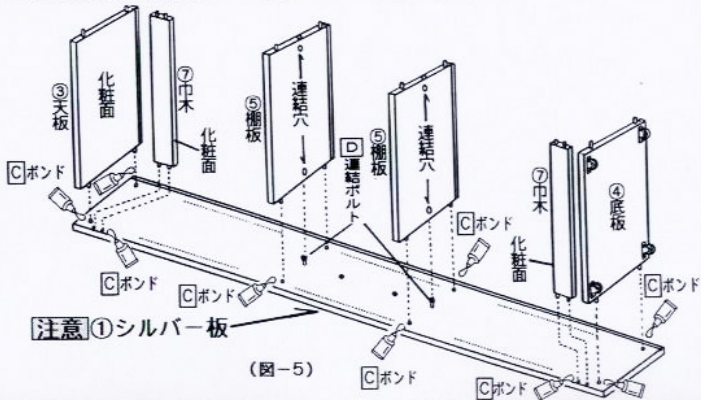
図1A・B・C・Dともに(共通)

手順①

①シルバー板の穴8個にCボンドを入れ、③天板・④底板・⑤棚板2枚・⑦巾木2本の突起した部分を穴に合わせて差し込みます。

この時、⑤棚板の穴にはD連結ボルトが同時に入ります。(図-5参照)

図1C・図1Dの場合

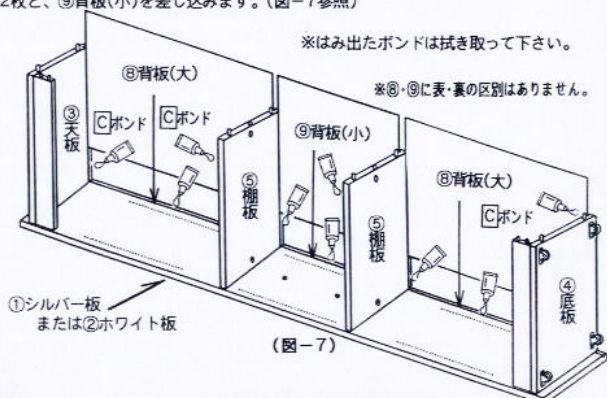


手順③

①または②及び③・④・⑤の各溝(各2カ所程度)にCボンドを入れ、③・④・⑤の溝に沿って⑧背板(大)2枚と、⑨背板(小)を差し込みます。(図-7参照)

※はみ出たボンドは拭き取って下さい。

※⑧・⑨に表・裏の区別はありません。



▼組み立ての手順が別紙に続きます。

4 ワゴンを組み立てる。(続き)

注意 ※③天板と④底板が入る穴はやや多めにボンドを入れ、はみ出たボンドは雑巾などで拭き取って下さい。

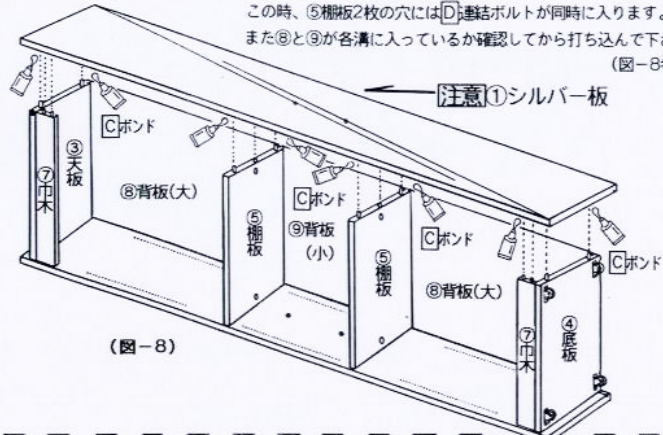
手順4

①シルバー板の穴8個と溝6カ所程度にCボンドを入れ、③天板・④底板・⑤棚板2枚・⑦巾木2本の突起した部分に穴を合わせて、上から傷のつかないようにあてものをあてて打ち込みます。

この時、⑤棚板2枚の穴にはD連結ボルトが同時に入ります。また⑧と⑨が各溝に入っているか確認してから打ち込んで下さい。

(図-8参照)

A・Bの場合



(図-8)

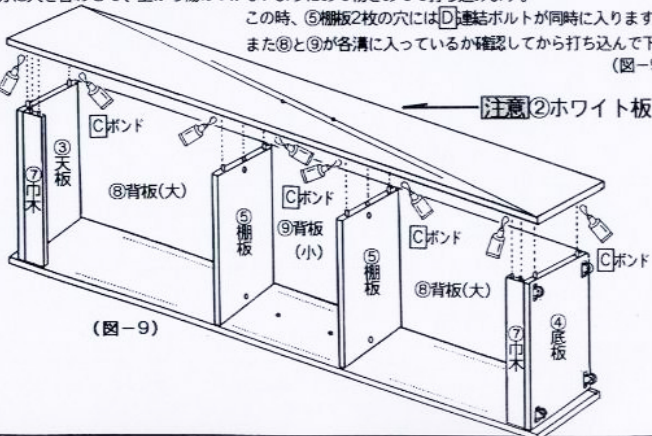
手順4

②ホワイト板の穴8個と溝6カ所程度にCボンドを入れ、③天板・④底板・⑤棚板2枚・⑦巾木2本の突起した部分に穴を合わせて、上から傷のつかないようにあて物をあてて打ち込みます。

この時、⑤棚板2枚の穴にはD連結ボルトが同時に入ります。また⑧と⑨が各溝に入っているか確認してから打ち込んで下さい。

(図-9参照)

C・Dの場合



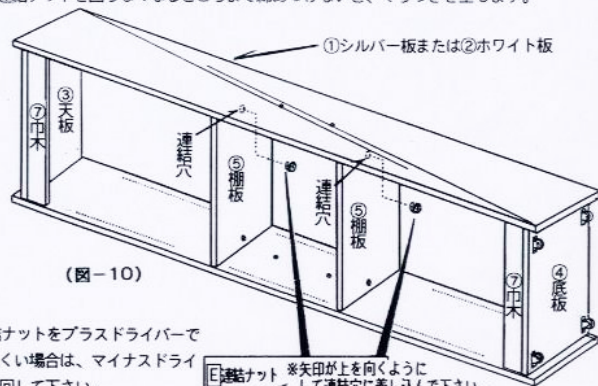
(図-9)

手順5

⑤棚板2枚の連結穴にE連結ナットのプラス穴にある矢印の向きを上向きにして差し込み、約180度(180度は回りません)時計回りに回転させて締めつけ、D連結ボルトと連結します。(図-10参照)

注意 ※E連結ナットの矢印が180度近く(半回転)動くまでしっかりと回して下さい。連結ナットを回らなくなるところまで締めつけないと、くづつきを生じます。

A・B・C・Dともに(共通)



(図-10)

※E連結ナットをプラスドライバーで回しにくい場合は、マイナスドライバーで回して下さい。

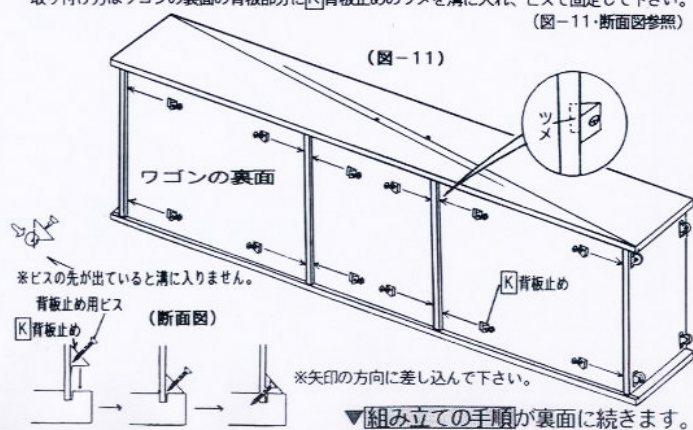
※矢印が上を向くようにして連結穴に差し込んで下さい。

手順6

ワゴンの横揺れを軽減するため、K背板止めを取り付けます。

取り付け方はワゴンの裏面の背板部分にK背板止めのツメを溝に入れ、ビスで固定して下さい。(図-11・断面図参照)

A・B・C・Dともに(共通)



(図-11)

※ビスの先が出てしまうと溝に入りません。

背板止め用ビス (断面図)

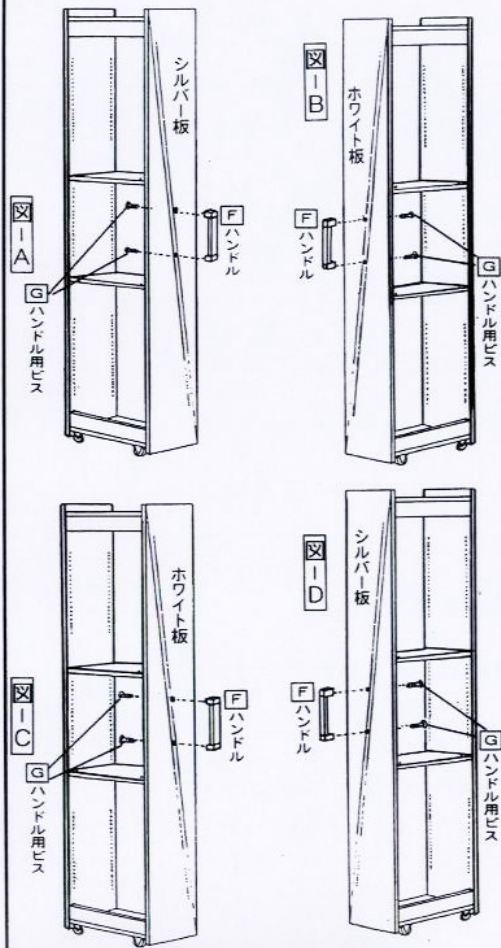
※矢印の方向に差し込んで下さい。

▼組み立ての手順が裏面に続きます。

5 ハンドルを取り付ける。

F-894

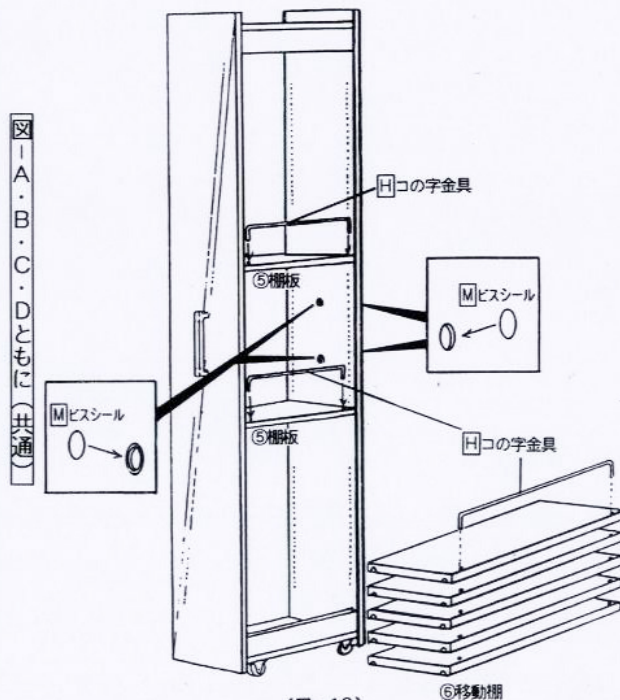
図-A・B・C・Dともに各図に従って、**F**ハンドルを
Gハンドル用ビスで取り付けて下さい。



6 コの字金具を取り付ける。

⑤棚板と⑥移動棚(5枚)の穴に**H**コの字金具を差し込み、ハンドルを取り付けていない穴に**M**ビスシールのホワイト及びシルバーを色に合わせて貼って下さい。

※図-A・B・C・Dとも同じ要領で取り付けて下さい。

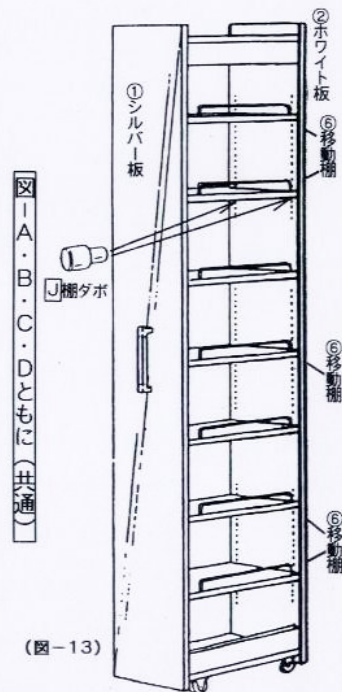


(図-12)

7 移動棚を取り付ける。

①シルバー板と②ホワイト板のお好みの穴に**J**棚ダボを差し込み、⑥移動棚(5枚)を乗せればワゴンの完成です。

※図-A・B・C・Dとも同じ要領で取り付けて下さい。



(図-13)

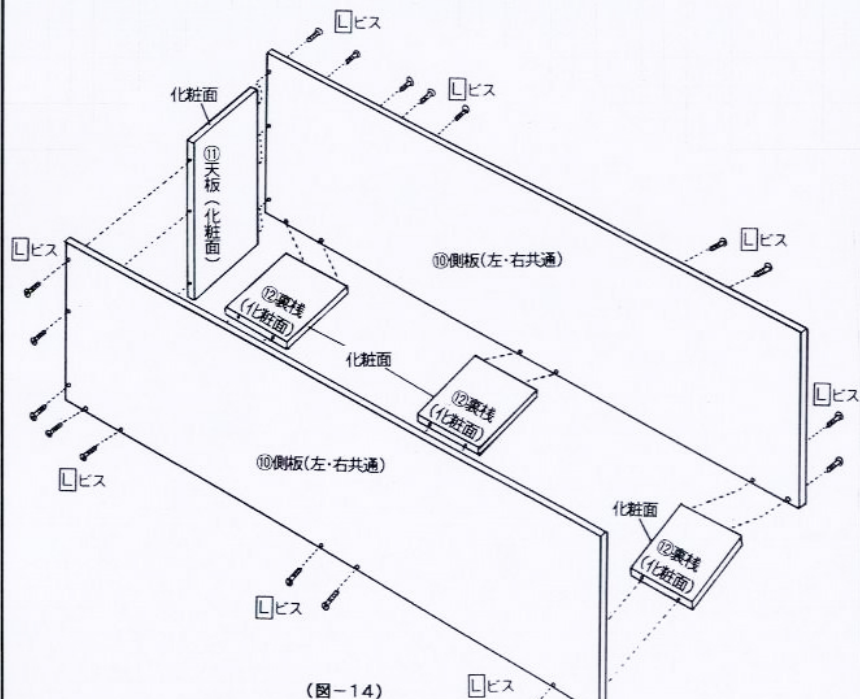
▼組み立ての手順が別紙に続きます。

ボックスの組み立て

F-894

⑩側板(左・右共通)に⑪天板・⑫裏棧3枚をLビスで取り付けます。(図-14参照)

注意※図-14を参考にして、各部材の向きを間違えないように取り付けて下さい。



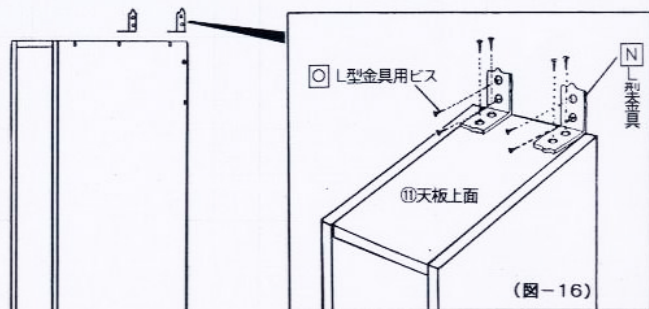
使用上の注意

※この製品に付いているキャスターは前後だけに動くキャスターですので、横に動かすと床に傷の付く恐れがありますのでご注意ください。
 ※キャスターで床面に傷が付いたり、床面がへこむ場合がありますので、板などを敷いていただくと床面に傷が付いたりへこんだりするのを防ぐことができます。

L型金具の取り付けについて

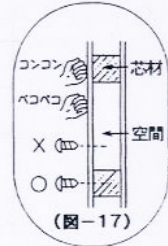
(1)組み上がったボックスを起こし、見えているビスの頭にMビスシールを貼ればボックスの完成です。(図-15参照)

(2)地震などによる転倒を避けるため、N L型金具を天板の上面に取り付けます。(図-16参照) 壁へは芯材のあるところに取り付けて下さい。(図-17参照)



(図-16)

壁の断面図



(図-15)

(3)最後に組み立ての手順 1~7で組み立てたワゴンをボックスの中に入れて完成です。

使用前の注意 ※組み上がった後、各接合部に隙間がないか確認して、ボンドが固まるまで12時間程度待ってからご使用下さい。

使用上の注意 ※ワゴンをボックスから完全に引き出すとワゴンが転倒する恐れがありますので、注意してご使用下さい。

使用上の注意 ※組み立て終了後に不具合がないか確認して下さい。
 なお、月一回程度ビスの緩みや異常がないか点検して安全にご使用下さい。